



研究プロジェクト名称：現代社会科学・数理科学に基づいたモラル・サイエンスの再構築
 Rebuilding a Moral Science Based on Modern Social and Mathematical Sciences
研究プロジェクト代表者：吉田あつし システム情報工学研究科・教授

この研究プロジェクトの目的は、「人間の認識・価値形成」、「社会制度の設計」、「政策形成と評価」の3つのレベルにおいて、人間行動と社会・経済制度を包括的に研究する**モラル・サイエンスを再構築**することである。

現代の支配的な社会構成原理は、「合理的個人+自由競争+市場+漸進的な技術的改善」である。その背景には、合理的に判断ができる個人間で、市場における自由競争を通じて富が分配されることが、最も社会厚生を高めることができ、問題が生じたときには漸進的な制度の改善で解決できるという信念がある。それは、普遍的原理であり、どのような社会もこの原理に従えば発展できると考える。しかし、発展途上国や旧社会主義国の移行経済での経験から、人間の行動様式は歴史的な文脈で認識や価値に制約されていることが報告されている。このように、上記社会構成原理に従い、社会活動の基盤である契約や法・経済制度のルールと市場を導入しても、多くの国々でそれはうまく働かないことが明らかになっている。他方、この原理に従うと考えられていた国々でさえ、基本的な社会制度において異なった制度を採用している場合がある。例えば、医療保障制度は、市場重視のアメリカ型から、国が医療を提供するイギリス型まで、国々により異なる制度が採られている。

本研究は、モラル・サイエンスの始祖であるアダム・スミスが「道徳感情論」と「国富論」で、人間行動への深い理解と歴史的な文脈に基づいた制度・政策を研究したことを手本にしたい。21世紀の現在は、数理科学・情報科学や現代的社会科学の分析手法が多くあり、それらを十分に活用し、同時にそれらを発展させながら、人間と社会制度の在り方を研究するのが、本研究の具体的方針である。その詳細を以下に述べる。

- A: 人間のソフト構造と社会的価値 — 社会的文脈においての人間の感情・思考・学習・行動（「合理的個人」仮説に対する限定的理性）と、個人的価値・社会的価値の研究。
- B: 社会制度の設計 — どのような制度がA.の観点から見て望ましいか、「自由競争+市場」を代替・補完する制度の研究。
- C: 個別の社会・経済政策の評価 — 政策の経済的価値のみならず社会的価値も含めた評価

<研究プロジェクト計画の概念図>

